敦盛の最期

一一八四年、一の谷の戦いで義経の奇襲を受けた平家は海に向かって敗走した。源氏方の武将・※熊谷次郎直実は、敵の大将軍と対戦したいと思い、磯の方へ馬を歩ませた。そこに見事な身なりの武者一騎が、舟を目指して馬を海に乗り入れていた。

熊谷、「あれは大将軍とこそ見まゐらせ候へ。
そこにいらっしゃるのは大将軍とお見受けいたします。
まさなうも①敵に後ろを見せさせたまふものかな。返させたまへ。」
見苦しくも敵に後ろをお見せになるものよ。（こちらへ）お引き返しください。
と扇を上げて招きければ、招かれて取つて返す。汀に打ち上らん
（その武者は）招かれて引き返す。（その武者が）波打ち際に上がろう
とするところに、押し並べてむずと組んでどうど落ち、
とするところに、（熊谷は馬を）並べてむずと組んでどうっと落ち、
取つて押さへて首をかかんと甲を押しあふのけて見ければ、
（武者を）取り押さえて首をかき切ろうと甲をあおむけにして見たところ、
年十六七ばかりなるが、薄化粧して、※かね黒なり。
年は十六、七くらいの者で、お歯黒をしている。
我が子の小次郎がよはひほどにて、容顔まことに美麗なりければ、
（熊谷の）我が子の小次郎の年齢くらいで、顔立ちが大変に美麗であったので、
いづくに刀を立つべしともおぼえず。
どこに刀を突き立てたらよいかもわからない。
「そもそもいかなる人にてましまし候ふぞ。名乗らせたまへ。
いったい（あなたは）どういう方でいらっしゃいますか。お名乗りください。
②助けまゐらせん。」と申せば、「汝は誰そ。」と問ひたまふ。
お助け申しましょう。お前は誰か。
「物その者で候はねども、※武蔵国の住人、熊谷次郎直実。」
物の数に入る者ではございませんが、
と名乗り申す。
と名乗り申し上げる。
「さては、汝にあうては名乗るまじいぞ。汝がためにはよい敵ぞ。
それでは、お前に対しては名乗るまいぞ。お前にとってはよい敵だぞ。
名乗らずとも首を取つて人に問へ。③見知らうずるぞ。」
名乗らなくとも首を取って人に問うてみよ。（私のことを）見知っているだろうよ。
とぞのたまひける。
とおっしゃった。

※熊谷次郎直実…武蔵国熊谷（現・埼玉県熊谷市）の武将。のちに出家し、法然の弟子となった。
かね黒…お歯黒。当時の貴族などの風習で、歯を黒く染める。
武蔵国…現在の埼玉県・東京都・神奈川県の一部。

重要語句

…まゐらす	お…申し上げる（する）
候ふ	あります（ございます）・…ます（でございます）
…たまふ	お…になる・…なさる
のたまふ	おっしゃる

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い(づかい)に直し、ひらがなで答えなさい。

A　まさなうも　〔　　〕

B　よはひ　〔　　〕

(2) 例に従って、次の言葉に含(ふく)まれる係りの助詞を□で囲み、変化している結びの部分に——線を引きなさい。

(例) さぬきの造(みやつこ)と[なむ]いひ<u>ける</u>

大将軍とこそ見まゐらせ候へ

(3) 本文中から、何かが倒(たお)れ落ちる様子を表す言葉を三字で書きぬきなさい。

□□□

(4) ——線①「敵」とあるが、ここでの「敵」にあたる人物として適当なものを選びなさい。

ア　熊谷次郎直実　　イ　大将軍　　ウ　小次郎　〔　　〕

(5) ——線②「助けまゐらせん」とあるが、なぜ若武者を助けようとしているのか。適当なものを選びなさい。

ア　若武者が我が子くらいの年齢(ねんれい)で、美しい顔立ちだったから。

イ　若武者の名前や、どんな人物かがわからなかったから。

ウ　若武者が、物の数に入るほどの者ではなかったから。　〔　　〕

(6) ——線③「見知らうずるぞ」とあるが、この発言からどのようなことがわかるか。適当なものを選びなさい。

ア　若武者がまだ年若い人物であること。

イ　若武者が名の通った人物であること。

ウ　若武者が名乗るほどの人物ではないこと。　〔　　〕